

感染症 ひとくち情報

ヘルパンギーナが流行しています



2016年7月22日

東京都健康安全研究センター

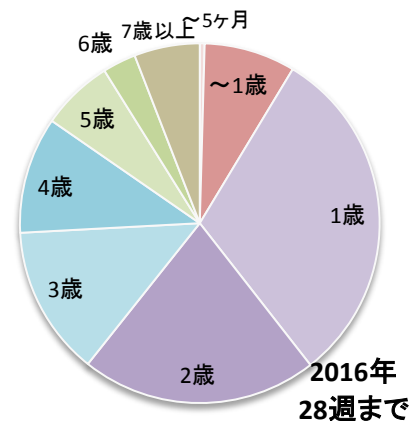
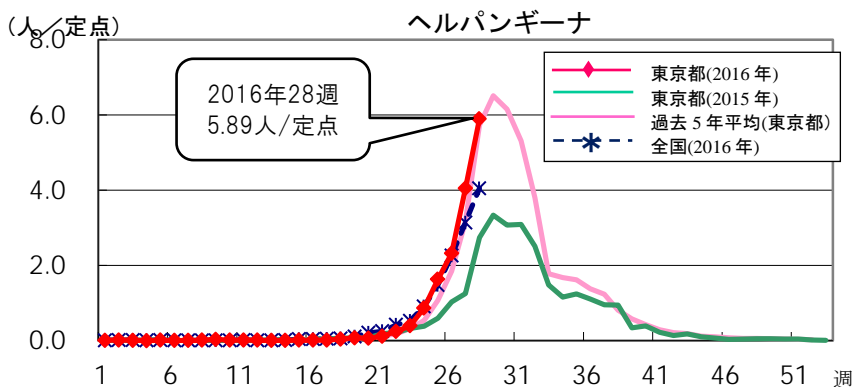
1 ヘルパンギーナとは

エンテロウイルス（主にコクサッキーウイルス）による感染症で、毎年6月から8月にかけて流行します。4歳以下の乳幼児に多くみられ、38度以上の突然の発熱、口の中にできる水ぼう（小さな水ぶくれ）が主な症状で、1週間程度でおさまります。まれに、髄膜炎や心筋炎が起こることがあります。

治療はそれぞれの症状に対する対症療法が中心になります。口の中に水ぼうができて痛むため、食事がとりやすいよう、柔らかく、薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけることが大切です。

2 現在の流行状況（7月17日まで）

都内の小児科定点医療機関^{*1}から、7月11日～7月17日（第28週）に報告された患者数は定点あたり5.89人となり、**流行警報基準^{*2}**を越えました。



***1 定点医療機関**：患者が多い疾患を把握するために受診患者数を報告している都指定の医療機関

*0から5歳の報告数が全体の約9割を占めています。

***2 流行警報基準**：感染症発生動向調査による定点報告において、6人/定点（週）を超えた全ての保健所の管内人口の合計が、東京都の人口全体の30%を超えた場合

3 予防のポイント

- ・ 患者の咳やくしゃみなどのしぶきに触れることによって感染（飛まつ・接触感染）するので、一般的な予防対策（手洗い、うがい、咳エチケット等）を心がけることが大切になります。
- ・ 症状がおさまった後も、2～4週間程度は便などにウイルスが排泄されるため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いを徹底しましょう。



*都内のヘルパンギーナの検出状況や、今年の流行状況をお知りになりたい場合は、東京都感染症情報センターの「ヘルパンギーナ」のページをご参照ください。

ヘルパンギーナ 東京都

検索

